

久々春吟

上毛野社中

あかりや君まひくほしその上 四國
盗人の毛遣又や拾せぬ 兩什
かかも也志と色あぬ 嬖所 百鹿
朝の氷柱ふきぬおまのあしふ 栄宿
定声や弦師川糸の 朝嵐 四國
たぬやうゝ狸うり白くは後 今
太力船治の棟又うくや定のえ 栄宿
やうきれ羊鹿 唄まひか 兩什
ふ鳥啼 けしと 老のま佛も 四國

八幡唐のあま〜とわりのほ
左うちさみちの好あり
まゆさかひい〜と

あ〜ら〜ちき〜ぬ〜こ〜ん
ゆり〜ぬ〜水〜を〜碎〜ぬ〜舟〜う〜ゆ 今
い〜ま〜つ〜ま〜ま〜か〜け〜ら〜ぬ〜や〜苗〜代〜田 今
綿〜さ〜も〜も〜さ〜や〜ほ〜む〜き〜ま〜も〜り 今

江戸や昔のうりきりぬれ 兩什
老拙や白くせぬの八九十 百キ
おめおつ〜ひら〜ぬ〜や〜枝〜の〜一〜川〜が〜り 四國
何かりあ柳足あけて角力より 今
かけらあり夕ぐれも 地ふか 百キ
雑子ゆ〜し〜枝〜の〜葉〜を〜ま〜さ〜る〜 栄宿
お刺子傳のぬぬ〜はるる 兩什
な悪〜花〜か〜のか〜る〜白〜の〜心 今

庚戌春

